

第139回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 手形借入金に関する問題である。手形借入金とは、借入を行う際に本来であれば借用証書に記入し、お金の借り入れを行うが、その借用証書の代わりに手形を振り出してお金を借り入れることを言う。
2. 土地の取得に関する問題である。土地の取得原価に整地費用が含まれる点に注意が必要である。
- (1) 未払金：165㎡×¥20,000＋¥100,000（購入手数料）＝¥3,400,000
- (2) 土 地：(1)＋¥50,000（整地費用）＝¥3,450,000
3. 修繕費に関する問題である。パソコンの修理に関する諸費用は修繕費勘定で処理すること。
4. 固定資産税の納付に関する問題である。固定資産税は、店舗部分と居住部分に分けられており、居住部分については、資本金勘定が一覧の中にないため、引出金勘定で処理することになる。なお、引出金勘定は資本金勘定の評価勘定であるということも確認してほしい。
- (1) 租税公課：¥100,000（固定資産税）×（1-40％（居住部分））＝¥60,000
- (2) 引 出 金：¥100,000（固定資産税）×40％（居住部分）＝¥40,000
5. 債権の貸倒れに関する問題である。前期に生じた債権であることから、貸倒引当金の設定対象となっている。したがって、まず貸倒引当金勘定で補てんし、なお補てんできない部分については貸倒損失（損益計算書の表示は販売費及び一般管理費の区分）により処理する。

第2問

各日の取引を以下に示す。

5日	(借) 売 掛 金	300,000	(貸) 売 上	300,000
	(借) 発 送 費	5,000	(貸) 当 座 預 金	5,000
10日	(借) 仕 入	300,000	(貸) 買 掛 金	100,000
			(〃) 当 座 預 金	200,000
15日	(借) 売 掛 金	150,000	(貸) 売 上	150,000
20日	(借) 売 上	30,000	(貸) 売 掛 金	30,000
30日	(借) 買 掛 金	250,000	(貸) 当 座 預 金	195,000
			当 座 借 越	55,000

第3問

合計試算表の作成に関する問題である。以下12月中の取引を仕訳に示す。

1日	(借) 仕 入	252,000	(貸) 前 払 金	50,000
			(〃) 買 掛 金	200,000
			(〃) 現 金	2,000
5日	(借) 所 得 税 預 り 金	1,500	(貸) 現 金	1,500
8日	(借) 仮 払 金	25,000	(貸) 現 金	25,000
9日	(借) 現 金	100,000	(貸) 売 上	400,000
	(〃) 受 取 手 形	300,000		
10日	(借) 現 金	1,000	(貸) 仮 払 金	25,000
	(〃) 旅 費 交 通 費	24,000		
	(借) 当 座 預 金	70,000	(貸) 前 受 金	70,000
11日	(借) 仕 入	280,000	(貸) 当 座 預 金	80,000
			(〃) 支 払 手 形	200,000
12日	(借) 当 座 預 金	149,000	(貸) 受 取 手 形	150,000
	(〃) 手 形 売 却 損	1,000		
17日	(借) 前 受 金	70,000	(貸) 売 上	350,000
	(〃) 売 掛 金	280,000		
	(借) 発 送 費	3,000	(貸) 現 金	3,000
20日	(借) 支 払 手 形	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
22日	(借) 当 座 預 金	200,000	(貸) 売 掛 金	200,000
24日	(借) 買 掛 金	250,000	(貸) 当 座 預 金	250,000
25日	(借) 給 料	150,000	(貸) 所 得 税 預 り 金	1,500
			(〃) 当 座 預 金	148,500
〃	(借) 通 信 費	7,000	(貸) 当 座 預 金	7,000
26日	(借) 水 道 光 熱 費	20,000	(貸) 当 座 預 金	20,000
〃	(借) 支 払 利 息	8,000	(貸) 当 座 預 金	8,000
29日	(借) 支 払 家 賃	50,000	(貸) 現 金	50,000

第4問

減価償却の記帳方法に関する問題である。減価償却費の総勘定元帳での記帳方法には、直接法と間接法の二つの方法がある。直接法とは、固定資産の勘定から直接減価償却費を控除する方法である。それに対して間接法は、減価償却累計額勘定を設けて、当該勘定に減価償却費の合計額を積み立てる方法である。どちらにもメリット・デメリットが存在するため考えてほしい。

ア：¥144,000（間接法で記帳の備品勘定）－¥6,000（間接法で記帳の備品減価償却累計額勘定）＝¥138,000

イ：直接法の場合には減価償却費を固定資産の勘定から直接控除するため、固定資産勘定の貸方側には売却等をのぞき減価償却費が記入される。

ウ：間接法で記帳の減価償却累計額勘定の¥24,000

エ：¥138,000（ア）－¥24,000（ウ）＝¥114,000

第5問

残高試算表の現金：現金の帳簿有高¥695,000

資本金：貸借差額により求める。

[決算整理事項]

1.	(借)	雑	損	5,000	(貸)	現	金	5,000
----	-----	---	---	-------	-----	---	---	-------

会計帳簿上より何らかの理由によりお金が少ないため、雑損を計上することになる。

2.	(借)	当	座	預	金	100,000	(貸)	受	取	手	形	100,000
----	-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

3.	(借)	売	掛	金	200,000	(貸)	売	上	200,000
----	-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---------

4.	(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	4,000	(貸)	貸	倒	引	当	金	4,000
----	-----	---	---	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	---	-------

{ ¥500,000 (修正後受取手形) + ¥700,000 (修正後売掛金) } × 2% - ¥20,000 (残高試算表貸倒引当金)
= ¥4,000

5.	(借)	仕	入	500,000	(貸)	繰	越	商	品	500,000
----	-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

		繰	越	商	品	450,000		仕	入	450,000
--	--	---	---	---	---	---------	--	---	---	---------

6.	(借)	消	耗	品	費	70,000	(貸)	消	耗	品	70,000
----	-----	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

¥80,000 (残高試算表消耗品) - ¥10,000 (消耗品未使用高) = ¥70,000

7.	(借)	減	価	償	却	費	60,000	(貸)	備	品	減	価	償	却	累	計	額	60,000
----	-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--------

¥600,000 (残高試算表備品) ÷ 10年 (耐用年数) = ¥60,000

8.	(借)	前	払	家	賃	180,000	(貸)	支	払	家	賃	180,000
----	-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

9.	(借)	支	払	利	息	5,000	(貸)	未	払	利	息	5,000
----	-----	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

¥1,500,000 (残高試算表借入金) × 2% × 2ヶ月 (11月1日～12月31日) / 12ヶ月 = ¥5,000